

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2021.3.31 No.64

Japan Association of College and University
Archives : Eastern Japan Division

目 次

・ 上野平真希「コロナ以降の博物館」を拝聴して	1
・ 片岡 美浦「コロナ以降のアーカイヴズを考える —東京都公文書館の取り組みから—」を拝聴して	3
・ 高橋 直子 第121回研究会に参加して	5
・ 全国大学史資料協議会2020年度総会記録	7
・ 全国大学史資料協議会2020年度役員会議事録	7
(第192回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会)	
・ 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	8
・ 全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	10
・ 全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿	11

2020年12月10日（木）研究会

「コロナ以降の博物館」を拝聴して

日本大学企画広報部広報課 上野平真希

今回、たばこと塩の博物館の鎮目良文氏の報告「コロナ以降の博物館」を聞く機会を得た。2020年12月、今まさに新型コロナウイルスの感染者数が再度増加しつつある中で（研究会が行われた12月10日、東京都の感染者数は初めて600人を超えたことが報じられた）、これまでどのように対応してきたか、また今後の予防策等について現場にいらっしゃる方のお話をリアルタイムで聞くことができる、とても貴重な機会であった。

報告ではまず、たばこと塩の博物館の沿革をはじめとする概要と、時代とともに「企業

博物館」の位置づけがどのように変化してきたのかについて説明があった。企業博物館として早い段階で設立されたたばこと塩の博物館は、「メセナ」として最初は渋谷に開館したこと、当初渋谷の地に博物館が建てられた理由や、現在の墨田区の業平に在ることはどのような意味があるのか、ということを全く存じ上げなかったのが、興味深く聞かせていただいた。

そして本題である新型コロナへの博物館の対応では、実に様々な実情を知ることができた。JTは新型コロナ対応の初動が早く、1月

末には従業員用のマスク・消毒液・うがい薬等の確保に動いたとのことであるが、筆者の実感として、あの頃、突如として街中からマスクや消毒液等が姿を消したので、本当に少しの初動の時期の差が後の物資確保の大きな差に繋がったように思う。たばこと塩の博物館では2月から職員にマスク着用が義務付けられ、消毒液等を館内各所に設置したそうなので、比較的早い段階からしっかりと対応がなされていたことに感心した。

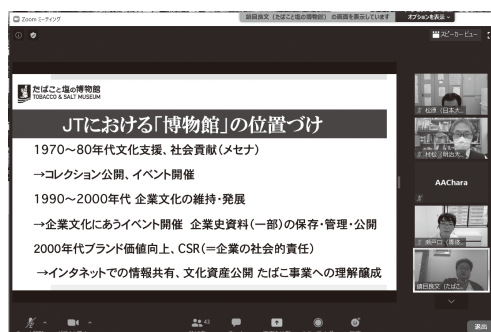
たばこと塩の博物館は出来る限りの対策を取りつつ開館を続けていたが、3月5日から臨時休館することになった。その理由は決して主体的なものではなく、江戸東京博物館が休館し、他館もどうやら休館するらしいとの情報を得たためである、というお話は、担当者であったからこそ知っている内情であろう。確かに、1か所だけ開いている博物館があると知れば、人が詰めかけたかもしれない。とても残念ではあるが、致し方ない面もあると思った。

その後、3月末にいったん再開したものの、感染拡大状況から僅か数日で再びの休館となり、さらに4月に入ると緊急事態宣言が発出されたこともあり、6月3日に再開館するまで基本的には在宅勤務となったという。6月に再開するにあたり、5月開催予定であった展覧会を次年度に延期し、また夏休みの子供対象の体験型イベントは人との接触を極力減らしたものと変更したということであるが、すでに決まっていた企画内容を大きく変更することは判断が難しく勇気がいり、また多大な労力が必要だったであろうことが想像される。それでも来館者を迎え入れ

るために、緊急事態宣言というかつてない状況下でも工夫を凝らし、来館者対応の準備をして下さった博物館の皆様には頭が上がらない。おそらく、全国各地の博物館等でも同じように様々な工夫がなされたことであろう。

また、今は従来からのホームページに加えてツイッター等SNSでの情報発信を行っており、最近では自分たちで動画を作成し、YouTubeでの展示紹介も始めたとのことである。筆者もこの感想を書くにあたり、ホームページ等を改めて拝見した。コロナ禍以降、集客を目的とした情報発信が出来なくなり、これに対応して情報発信の在り方を変化させているとのことであるが、写真付きで丁寧に説明が書かれ、定期的に情報が発信されていたので、親しみやすさを感じた。こうした情報発信をきっかけに館を知り、いつか落ち着いたら訪れよう、と考える人もいると思う。また発信される情報の中で、今はどのような対策を行っているのが明示されているため、来館者側としては、どのようにふるまうべきか心構えが出来るし、また安心感を得られると感じた。

2020年を迎えた時点では、まさか日本が、世界が、たった1年でこんな風になる



報告レジュメ(一部)と報告者の鎮目氏(右下)

とは誰も思いもしなかっただろう。このような事態になったからこそ、鎮目氏のお話にもあったように、博物館は「非日常」を体験できる特別な場所であることを改めて実感している。同時に、今この状況下でその「非日常」的な体験の場を維持し、支えて下さる方々には感謝の言葉しかない。質疑応答の中で、たばこと塩の博物館は観光地に近いため人が多く来ることはないか？との質問に対し、鎮目氏は、今は目的性があるて来る人ぐらいでありそんなに混んでいない、今この状況下で来てくれる人を大切にしたい、と回答なさっていた。博物館を訪れる方の身として

は、このような状況下でも博物館に行っても良いのだな、と思える大変ありがたい言葉である。

まだまだ先行きは見えず、当分は気が抜けない日々が続くであろうが、いずれコロナ禍が収束し、気兼ねなく多くの博物館を楽しく巡ることができる日は来ると思う。その日に向けて、我々は試行錯誤を繰り返し、今の仕事を未来に繋げていくのだな、と改めて感じるご報告であった。お忙しい中にも関わらず貴重なお話を聞かせていただいたことに深く感謝する。

「コロナ以降のアーカイブズを考える —東京都公文書館の取り組みから—」を拝聴して

獨協学園史資料センター 片岡 美浦

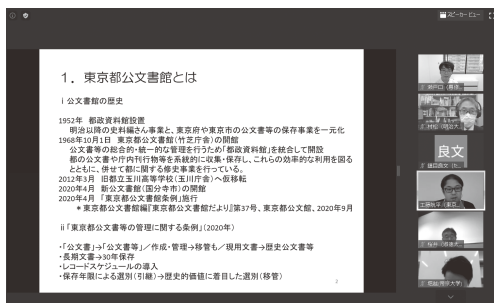
2020年12月10日、東京都における新型コロナウイルス感染確認が初の600人台となり、外出の難しいなか、オンラインで研究会を開催していただき、貴重なお話を拝聴できましたこと、大変嬉しく有難く存じます。発表者の皆様、幹事校の皆様に心より御礼申し上げます。

東京都公文書館の工藤氏の7項目のご講演内容から、①2020年4月に国分寺市に新公文書館が開館、「東京都公文書館条例」が施行されたこと。②長年にわたり刊行された「東京市史稿」が、2021年3月、産業編第61巻の刊行をもって完結する予定であること。以上2点に絞ってご報告し、感想を述べさせていただきます。

まず、「東京都公文書館だより第36号」掲載のとおり、東京都公文書館は、新館の開

設により、「都政の透明化を進め説明責任を果たす基盤として。貴重な資料を永久に保存する施設として。江戸・東京研究と都政史検証の拠点として。」という3つの側面を十全に機能させることをめざし、新たなステージに向けた活動を開始されました。最新の省エネ・再エネ技術が導入され資料保存環境も適正化された新館施設について、ご講演中に閲覧室等の画像を拝見しました。エントランスの98型ビジョンによる公文書館の活動案内、過去の展示ポスターが見られるタッチパネル、江戸時代から現代までの歴史を年表等で辿る常設展など、個人での利用はもちろん、落ち着いた状況になったら「見学会」を実施していただきたいと思いました。

東京都公文書館は、新館への移転に向け、2019年11月から2020年3月まで閲覧室



報告レジュメ(一部)と報告者の工藤氏(右中央)

利用を停止し、更に移転以降もコロナ感染拡大により臨時休館を余儀なくされ、6月1日より事前予約制による閲覧室利用を開始することができました。12月10日現在は、手指消毒、検温、健康連絡票記入等来館者の協力により、座席制限のうえでの閲覧室利用、通常どおりの資料提供等をされています。

そのようななか、7月に東京都において新型コロナウイルス関連文書の廃棄が発覚し、5月の「新型コロナウイルス感染症対策に係る公文書の整理等について」通知に係る注意事項が10月に出されました。コロナ関連公文書においては、社会状況の変化が続く中で重要度、資料価値等を現時点で適正に判断することが難しいことから、取扱いをより慎重に行うよう指示され、担当が公文書館となったことにより、公文書館から詳細な移管方針が提示されました。この背景には、7月の関連文書の破棄とともに、「公文書の保存期間満了時の措置に関する指針」の承認権限を有する、外部有識者で構成される東京都公文書管理委員会からの提言がありました。コロナ禍における機関の対応及びその意思決定プロセスを明確にするものとして、何をどこまで保存しておくかは喫緊の課題となっており、組織としての取り組み方、基となる考え方及び

方向性を示していただきました。

また、移転後に開始された、デジタルアーカイブ及び特定歴史公文書等の利用請求制度により、利用者は来館せずに資料を入手することが可能となりました。しかし、デジタルアーカイブの利用開始及び提供コンテンツの充実は利便性が高まる反面、来館者数及び閲覧者数の減少をもたらすこととなり、コロナ禍による臨時休館解除後も減少傾向は続くことが見込まれています。そこで、公文書館の評価指標について、来館による利用者数だけでなく、ホームページアクセス数及びデジタルサービスダウンロード数等に、評価比重を移行する必要性が生じています。

次に、1952年に設置された都政資料館を統合し、1968年に公文書等の総合的・統一的な管理を行うため開設された東京都公文書館において、旧東京府・市の事業を継承し編纂してこられた「東京市史稿」が、2021年3月の刊行をもって完結されるということです。東京都公文書館におかれては、「庶務担当」、「整理閲覧担当」及び都の修史事業、調査、普及事業を担当される「資料編さん担当」に組織が分かれており、工藤氏の所属される「資料編さん担当」では、特定歴史公文書ほかの一覧作成、データベース化等から公開までを担当されています。工藤氏は、リモートワーク（在宅勤務）による弊害として、歴史公文書等の移管や整理・保存作業の遅れ、企画展示・講座の延期、修史編さん作業の遅れ等を挙げられましたが、参加者に共通する今年度最大の課題であると感じました。

ご講演後、村松氏（明治大学）、松原氏（日本大学）、土田氏（同志社大学）、瀬戸

口氏（専修大学）、堀越氏（帝京大学）との間で、コロナ禍における開館及び入館者対応の実際、感染防止対策の予算措置、非常事態ゆえの活動および評価指標のあり方等について、それぞれ質疑応答等があり、評価において、利用者の満足度を高め、それを指標とする見直しが必要とのご発言もありました。

明治44年「皇城篇」第1巻刊行以降、長きにわたる編さん事業において、現在までに11篇182冊、附図40点が刊行され、つ

いに産業篇第61巻の刊行により完結を迎える「東京市史稿」。時を経て時代が移りゆき、2020年という年はどのような歴史として遺されるか、未来に思いを馳せつつ、本日の講演内容を心に刻みたいと思います。学生、卒業生、地域の皆様で賑わうキャンパスに一日も早く戻るよう、切に願わずにはられません。

2021年1月21日（木）研究会

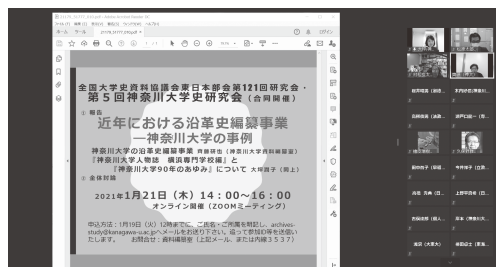
第121回研究会に参加して

女子美術大学歴史資料室 高橋 直子

2021（令和3）年1月21日、全国大学史料協議会東日本部会第121回研究会がオンラインで開催された。本研究会のテーマは「近年における沿革史編纂事業—神奈川大学の事例」で、2名による報告、全体討論が行われた。なお、本研究会は第5回神奈川大学史研究会と合同開催として実施された。

第1報告として、神奈川大学の齊藤研也氏より「神奈川大学の沿革史編纂事業」について報告があった。神奈川大学の沿革史編纂事業は、1982年の『神奈川大学五十年小史』が端緒である。同史は批判や検証に応えるた

め、資料に基づく叙述がなされた。一方で資料収集が十分ではなかったという反省から資料の収集・整理・保存活動に力を入れることになったという。『五十年小史』以前は『創立二十周年記念論文集』（1949年）、『三十年の歩み』（1959年）、『社会科学の方法と諸問題』（同年）を発行したが、1968年の大学紛争の影響で各種事業は中断した。未刊行の「三十年史稿」「三十周年史資料（写）」「神奈川大学四十年の歩み」の中には、現在では紛失し、原本を確認することができない資料の写しが収録されており、資料的価値が評価されている。1989年には、神奈川大学資料編纂室が設置され、大学史資料の収集、整理、保存、活用を行うこととなった。重要な事業の一つとして『神奈川大学史資料集』（第1集 1984年／第37集 2021年）の発行が挙げられる。同書には40周年座談会、創立者関係事項、教授会議事録など



オンライン研究会の様子



『創立90周年記念誌 神奈川大学90年のあゆみ』を紹介する大坪氏

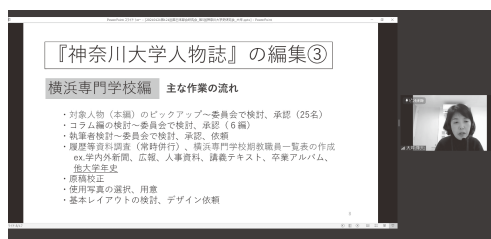
が収録された。1988年、98年に写真集を発行し、創立80周年を迎えた2008年には創立者小伝を、翌年には『神奈川大学80年のあゆみ』を発行した。また、この時、20年後の創立100周年（2028年）に向け、事業を計画する機会ともなった。創立100周年記念事業として『神奈川大学百年史』（資料編・通史編）発行を目標に掲げ、百年史編纂委員会発足（2015年）、『神奈川大学史紀要』創刊（2016年）などの事業を進めてきた。

第2報告として、神奈川大学の大坪潤子氏より「『神奈川大学人物誌 横浜専門学校編』と『神奈川大学90年のあゆみ』について」という報告があった。この2冊の発行物は、百年史編纂事業の一環として制作されたものである。『人物誌』は計3冊を発行予定で、最初の1冊を2018年に発行した。過去に人物を取り上げた発行物はあったが、自校史教育のテキストにもなりえるハンディさ、客観的な記述、学生が興味をもつデザイン・記述を目指し改めて制作することとなったという。対象人物をピックアップし調査を行ったが、もともと教職員一覧表がないため、一から調査する必要があったという。『90年のあゆみ』は3部構成で、第1部では年表と写真で学校史とキャンパスの変遷を示し、第2部ではテーマごとにトピックを紹介、第

3部では百年史の基礎資料ともなるデータをまとめた。学生生活の記述に重きをおく方針は、これまでの年史との共通するところであり、学校史とキャンパスの変遷を並列して示し、写真解説の充実、クレジットの明記については、これまでにない『90年のあゆみ』の特長であるという。担当者の苦勞として建造物などの竣工時期について統一基準がない中で、竣工・落成・引き渡しなどの時点に記載するのかを判断する難しさがあったと述べられた。

全体討論では、参加者からさまざまな質問が寄せられた。「人物誌において取り上げる人物の選定のポイント」について聞かれた際、大坪氏が「大学への貢献度」を挙げたことが興味深かった。また、コロナ禍の影響で在宅勤務をしながら、執筆者と連絡を取り合い、校正を進めた苦勞については共感を覚えた。

本学でも今まさに年史編纂を行っていることがあり、報告や全体討論を大変興味深く拝聴した。神奈川大学の詳細な報告を通じて、年史編纂について知見を広めることができ、またその意義や難しさを痛感した。各大学によって事業の規模や方針は異なるが、本研究会の場で得た情報を日々の業務に生かしていきたい。



『神奈川大学人物誌』の編集経緯について説明する大坪氏

全国大学史資料協議会

2020年度総会記録

2020年10月に開催を予定していた全国大学史資料協議会総会及び全国研究会は、新型コロナウイルス蔓延の影響により、全国研究会は次年度に延期、総会は書面開催となった。なお、総会の議題は報告事項のみで11月6日に会員各位へメール配信した。総会資料は以下の通りである。なお、総会議案書は役員会についての報告が主であるため、詳細は役員会議事録を参照されたい。

- (1) 全国大学史資料協議会2020年度総会議案書
- (2) 資料1 全国大学史資料協議会2021年度総会ならびに全国研究会の開催について(案)
- (3) 資料2 全国大学史資料協議会2019年度全国総会・研究会収支
- (4) 資料3 2020～2021年度東日本部会・西日本部会幹事
- (5) 資料4 全国大学史資料協議会2020年度全国役員会記録
- (6) 資料5 全国大学史資料協議会東日本部会2020年度事業計画書
- (7) 資料6 全国大学史資料協議会西日本部会2020年度事業計画書

全国大学史資料協議会

2020年度役員会議事録

(第192回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会)

日 時：2020年10月22日(木)

14時00分～15時00分

※「Zoom」によるオンラインWeb会議

出席(東日本部会)

神奈川大学、國學院大學、淑徳大学、専修大学、大東文化大学、帝京大学、東海大学、日本大学、武蔵野美術大学、明治大学、立教学院、古俣達郎

(西日本部会)

大阪大学、大阪女学院、関西大学、関西学院、同志社大学、広島大学、桃山学院、古野貢

司 会 上田裕保氏(西日本部会庶務校・同志社大学)

議 事

1. 2021年度総会・全国研究会の運営について

西日本部会庶務校・同志社大学から、2021年度総会・全国研究会の運営について、配布資料に基づき説明がなされた。引き続き、開催会場となる西日本部会部会長校・関西学院から、開催予定日(第一候補10月6～8日)の確認と移動距離の関係により最終日解散時間が午後になる旨の報告がなされた。

西日本部会庶務校・同志社大学から、2021年度全国研究会のテーマは「大学スポーツとアーカイブズ」(仮題)とする、講演者は西日本部会から1名を選出し、全国研究会の報告者は西日本部会から2名、東日本部会から1名を選出すると確認があった。全国研究会のテーマに大学スポーツを取り上げるのは初めてとなる。東日本部会(明治、専修、中央、日大、立教)や西日本部会(関大)から、スポーツ関連の企画展等の事例報告があった。

東日本部会事務局・日本大学から、2021年度総会・全国研究会の開催について、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、オンライン開催も考慮するよう提言があり、本年度に東日本部会で開催されたオンライン研究会についての報告があった。

また、東日本部会会計委員・東海大学から、配布資料に基づき、2019年度総会・全国研究会の会計報告があった。

2. 全国大学史資料協議会2020年度総会の開催について

(1) 2020年度総会の議題

1) 2020年度全国大学史資料協議会全国役員会の報告について

2021年度全国大学史資料協議会

2) 2020年度東日本部会・西日本部
会事業報告

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度総会はeメール・ホームページ等を用いた書面開催である旨、報告がなされた。議題は、本日の全国役員会内容を全国役員会議事録により報告する。もう一件は、両部会の総会で承認された2020年度事業計画書を総会資料にして、報告することとした。

2020年度総会の通知方法は、東日本、西日本の両部会の別に、会員へeメール等で総会資料を送付することとした。総会議案が報告事項のみであるため、賛否の議決をとる必要がないので、会員のeメール受信で総会は成立したものとする。通知方法については、東日本部会はWebサイトから、西日本部会はeメールによる連絡である旨、東日本運営委員（ウェブシステム担当）兼務・神奈川大学と西日本部会長校・関西学院からそれぞれなされた。

東日本部会・西日本部会の幹事会は、2020～2021年度に幹事の役職を交代するため、両部会から役職名と幹事の紹介があった。なお、2020年度総会は現会長校の関西大学と副会長校の明治大学で案内を発信し、総会後から会長校は専修大学に、副会長校は関西学院に交代する。

(1) 東日本部会運営委員（叢書・会報担当）・大東文化大学から『研究叢書』第21号の発行について報告

があり、次号は西日本部会が担当することが確認された。

(2) 東日本部会事務局・日本大学から、1)「協議会ホームページの修正」(会員名簿は修正完了)の進捗状況について、2)「大学史資料機関紹介」の修正依頼について、報告があった。

東日本部会幹事会議事録

第193回全国大学史資料協議会東日本部会幹
事会議事録

日 時 2020年12月10日 (木)

13時00分～13時40分

※ZoomによるWeb会議

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学
専修大学 大東文化大学 東海大学
日本大学 明治大学 立教学院
古俣達郎 檜皮瑞樹

(1) 2020年度東日本部会総会（書面審議）
について

- ・事務局（日本大学）より、すべて報告事項であり、とくに会員からの意見はなかったことについて報告があった。
- ・事務局（明治大学）より、2021年度は対面開催（2021年10月6～8日 関西学院大学他）の予定であることについて報告があった。

(2) 2020年度研究会について

- ・12月研究会のスケジュール及び役割分担（担当 事務局 記録 檜皮瑞樹氏）について確認を行った。
- ・1月研究会は、担当の神奈川大学より、1月21日（木）に「近年における沿革史編纂事業―神奈川大学の事例」と題して、当部会と神奈川大学史研究会との共催でオンライン実施することについて報告があり、了承した。
- ・3月研究会は、担当の東海大学より、凸版印刷・印刷博物館に協力を願い開催することについて報告があり、了承

した。

なお、対面かオンラインでの開催かについては、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえて決定することとした。

(3) 2021年度東日本部会総会について

- ・2020年度対面開催で会場を予定していた法政大学で実施する方向で検討する。
- ・担当の古俣達郎氏より、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえてどのような形で開催するか決定すると報告があった。

(4) その他

- ・事務局（明治大学）より、機関会員として、日本獣医生命科学大学付属ワイルドライフ・ミュージアム（担当 石井奈穂美氏）が入会したについて報告があった。
- ・会報第63号について、担当の大東文化大学より、12月1日に完成し、会員に発送したについて報告があった。

第194回全国大学史資料協議会東日本部会幹
事会議事録

日 時 2021年1月21日 (木)

13時00分～13時40分

※ZoomによるWeb会議

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学
専修大学 大東文化大学 東海大学
日本大学 武蔵野美術大学
明治大学 古保達郎 檜皮瑞樹

議 題

(1) 2020年度研究会について

- ・本日（2021年1月21日）開催の第121回研究会（担当：神奈川大学、記録：立教学院）は当部会と第5回神奈川大学史研究会との合同開催であることを確認し、担当校の神奈川大学より概要が説明され、了承した。
- ・3月研究会（担当：東海大学、記録：大東文化大学）について、東海大学より、凸版印刷・印刷博物館で対面型とオンライン型のハイブリッドとなる研究会の開催を予定していること等が説

明され、了承した。日程は先方の第一希望である3月11日（木）で調整することとなった。オンラインのZoomアカウントは当会のものを使用し、現地で参加する人数の設定は新型コロナウイルス感染症に配慮したものとする旨付言があった。なお、博物館見学に参加する際の入館料については協議会で負担が可能である旨、会計委員（東海大学）より説明があった。

(2) 2021年度東日本部会総会について

- ・2021年度東日本部会総会は、2020年度に開催を予定していた法政大学で実施することを確認し、了承した。これについて担当の古俣達郎氏より、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえて、現地とオンラインのハイブリッドで行うことや、会場見学の際にグループや会場を分けて実施することを検討している旨の説明があった。
- ・開催日は5月27日を第一候補として準備を進めているが、詳細については3月の幹事会において改めて報告する。

(3) 2021年度研究会について

- ・2021年度研究会の年間テーマについて、事務局（日本大学）より過去のテーマ等について説明があり、新型コロナウイルス感染症の流行により今後資料の活用方法やデジタル化・公開等について議論することが有効であることから、2020年度と同じ「大学史資料の活用と公開」とすることが提案され、了承した。
- ・2021年度研究会の担当について事務局（日本大学）より資料に基づき説明があり、了承した。

(4) その他

- ・『会報』No.64について、担当の大東文化大学より、順調に進んでおり3月末日に発行する予定である旨報告があった。
- ・会計担当（東海大学）より、2020年度のウェブシステムの維持管理と『研究叢書』21号刊行についての東西按分

について説明があり、この案を以て西日本部会と調整を進めることを了承した。

- ・事務局（日本大学）より、大学史資料所蔵機関ページの更新について、資料に基づき説明があった。質疑応答の結果、2021年4月1日付の情報を掲載すること、年度末から年度初めにかけて作業を進めること、来年度の予算で行うこととなった。この件は西日本部会との調整が必要であることから、西日本部会にも投げかけ、3月幹事会で改めて報告する。
- ・本日開催の第121回研究会の参加記の担当を確認した。

全国大学史資料協議会 東日本部会研究会記録

第120回全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

日 時 2020年12月10日（木）
14時00分～16時00分

会 場 オンライン開催

出 席 お茶の水女子大学 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学 上智大学 女子美術大学 聖心女子大学 専修大学 大東文化大学 拓殖大学 多摩美術大学 中央大学 帝京大学 東海大学 東京農業大学 東洋学園大学 獨協学園 日本大学 武蔵野美術大学 明治大学 立教学院 早稲田大学

浅井ふたば 古俣達郎 林慎一郎
檜皮瑞樹

【西日本部会参加者】 大阪大学
同志社大学 関西大学 大阪女学院

会長校挨拶 瀬戸口龍一（専修大学大学史資料室）
司 会 松原太郎（日本大学企画広報部広報課）

講 演 鎮目良文（たばこと塩の博物館学芸部長）
「コロナ以降の博物館」
工藤航平（東京都公文書館公文書

専門員）

「コロナ以降のアーカイヴズを考える—東京都公文書館の取り組みから—」

〔概要〕本研究会では、まず会長校である専修大学瀬戸口氏より挨拶と趣旨説明がなされた後、たばこと塩の博物館学芸部長の鎮目良文氏より「コロナ以降の博物館」というテーマで、東京都公文書館公文書専門員の工藤航平氏より「コロナ以降のアーカイヴズを考える」というテーマで報告を頂いた。鎮目氏からは、2020年3月の臨時休館から6月の再開に至る詳細な経緯や、ブース対応やレイアウト変更などの入場者対応について具体的な報告がなされた。また、YouTube等のオンラインによる展示内容の発信についても説明があった。工藤氏からは、2019年11月の移転による利用停止から、2020年6月の利用開始までの経緯や、オンラインでの資料提供について報告がなされた。また、東京都におけるコロナ関連公文書の廃棄や、関連公文書の移管方針や移管基準ガイドラインをめぐる動向について説明があった。質疑では、コロナ対策をめぐる予算配分の問題、開館や休館をめぐる今後の見通し、博物館・図書館・公文書館等での入場者を基準とした事業評価の問題点や見直しの方向性などが話題となった。（檜皮瑞樹）

第121回全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

日 時 2021年1月21日（木）
14時00分～16時00分

会 場 オンライン開催

出 席 お茶の水女子大学 学習院 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学 女子美術大学 聖心女子大学 専修大学 大東文化大学 多摩美術大学 中央大学 帝京大学 東海大学 日本大

学 法政大学 武蔵野美術大学 明
治大学 立教学院 早稲田大学
浅井ふたば 古俣達郎 近藤秀二
下田尊久 谷本宗生 林慎一郎
檜皮瑞樹

【神奈川大学史研究会参加者】

池原治 出雲雅志 川口好孝

岸本嘉江 久保野雅史 後田多敦

会長校挨拶 瀬戸口龍一(専修大学大学史資料室)

開催校挨拶 木内好信(神奈川大学史研究会・神
奈川大学大学資料編纂室)

※神奈川大学史研究会と合同開催

司 会 松原太郎(日本大学企画広報部広
報課)

テ ー マ 「近年における沿革史編纂事業—
神奈川大学の事例」

講 演 齊藤研也氏(神奈川大学大学資料
編纂室)

「神奈川大学の沿革史編纂事業」

大坪潤子氏(神奈川大学大学資
料編纂室)

「『神奈川大学人物誌 横浜専
門学校編』と『神奈川大学90年
のあゆみ』について」

〔概要〕本研究会は「近年における沿革史
編纂事業—神奈川大学の事例」と題
し、第5回神奈川大学史研究会との合
同開催として催された。

はじめに専修大学(会長校)の瀬
戸口龍一氏、神奈川大学の木内好信
氏から挨拶があり、続いて神奈川大
学資料編纂室の齊藤研也氏、大坪潤
子氏により報告がなされた。

2028年に創立100周年を迎える神
奈川大学では、創立100周年記念事
業『神奈川大学百年史』(資料編・
通史編)刊行にむけての準備がすす
められている。齊藤氏は、同大学に
おける沿革史編纂事業の今日に至る
までの流れについて説明された。本
格的な沿革史編纂事業は『神奈川大
学五十年小史』(1982年)にはじま
り、以後、資料の収集・保存にも注
力、1989年に神奈川大学資料編纂室

が設置され、2015年には神奈川大学
百年史編纂委員会が発足した。大坪
氏は、百年史編纂事業の一環として
刊行された『神奈川大学人物誌 横浜
専門学校編』(2018年)、『神奈川
大学90年のあゆみ』(2019年)を紹
介し、それぞれの内容や特色、編集
を通じての気づきなどについて説明
された。両報告の後、質疑応答、全
体討論が行われた。

(今井祥子)

全国大学史資料協議会東日本部会

会員名簿(2021年3月11日現在)

- 1 愛知医科大学 アーカイブズ・医学情報
センター(図書館)
- 2 愛知大学 東亜同文書院大学記念セン
ター(豊橋研究支援課)
- 3 青山学院 資料センター
- 4 跡見学園女子大学 IR・大学資料室
- 5 お茶の水女子大学 歴史資料館
- 6 学習院 学習院アーカイブズ
- 7 神奈川大学 大学資料編纂室
- 8 関東学院 学院史資料室
- 9 国立音楽大学 校史資料室
- 10 慶應義塾 福澤研究センター
- 11 恵泉女学園 史料室
- 12 皇學館大学 研究開発推進センター
- 13 國學院大學 校史・学術資産研究センター
- 14 国際基督教大学 歴史資料室
- 15 国士館 国士館史資料室
- 16 国立女性教育会館 情報課
- 17 駒澤大学 禅文化歴史博物館大学史資料室
- 18 芝浦工業大学 経営企画部企画広報
課・図書館
- 19 自由学園 自由学園資料室
- 20 淑徳大学 淑徳大学アーカイブズ
- 21 上智大学 ソフィア・アーカイブズ
- 22 女子美術大学 歴史資料室
- 23 成城学園 教育研究所(成城学園百年
史編纂室)
- 24 聖心女子大学 管理部(大学アーカイ
ブズ準備室)

- 25 聖路加国際大学 大学史編纂・資料室
- 26 専修大学 大学史資料室
- 27 創価大学 創価教育研究所
- 28 大東文化大学 大東文化歴史資料館
(大東アーカイブス)
- 29 拓殖大学 創立百年史編纂室
- 30 玉川大学 教育博物館
- 31 多摩美術大学 アートアーカイヴセン
ター (AAC)
- 32 中央大学 広報室 大学史資料課
- 33 津田塾大学 津田梅子資料室
- 34 帝京大学 帝京大学総合博物館
- 35 東海大学 学園史資料センター
- 36 東京経済大学 図書館・史料室
- 37 東京女子医科大学 史料室・吉岡彌生
記念室
- 38 東京女子大学 大学運営部総務課 大
学資料室
- 39 東京電機大学 総務部(企画広報担当)
- 40 東京農業大学 図書館事務課
- 41 東邦大学 額田記念東邦大学資料室
(法人本部経営企画部)
- 42 東北学院 東北学院史資料センター
- 43 東北大学 史料館
- 44 東北文化学園大学 図書館事務室(学
園史編纂室)
- 45 東洋英和女学院 史料室
- 46 東洋学園大学 東洋学園史料室
- 47 東洋大学 井上円了研究センター・井
上円了記念博物館
- 48 獨協学園 獨協学園史資料センター
- 49 富山大学 アーカイブズ・総務部アー
カイブ事務室
- 50 南山学園 南山アーカイブズ
- 51 日本獣医生命科学大学 附属ワイルド
ライフ・ミュージアム
- 52 日本女子大学 成瀬記念館
- 53 日本体育大学 図書館
- 54 日本大学 企画広報部広報課(大学史)
- 55 フェリス女学院 資料室
- 56 法政大学 HOSEIミュージアム
- 57 北海道大学 大学文書館
- 58 武蔵学園 記念室
- 59 武蔵野美術大学 法人企画グループ法

- 人企画チーム 大学史史料室
- 60 明海大学 浦安キャンパス メディア
センター(図書館)
- 61 明治学院 歴史資料館
- 62 明治大学 大学史資料センター
- 63 明星大学 明星教育センター
- 64 立教学院 立教学院展示館
- 65 立教女学院 資料室
- 66 立教大学 立教学院史資料センター
- 67 立正大学 学長室大学史料編纂課
- 68 早稲田大学 大学史資料センター

以上機関会員68・個人会員36・名誉会員6

ご 案 内

全国大学史資料協議会および同協議会
東日本部会に関するお問い合わせ、入
会申し込みは、下記へご連絡ください。

【日本大学企画広報部広報課(大学史)】

〒102-8275

東京都千代田区九段南4-8-24

TEL: 03(5275)8444

MAIL: nuhistory@nihon-u.ac.jp

【明治大学史資料センター】

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台1-1

TEL: 03(3296)4085

MAIL: hismate@meiji.ac.jp

会 報 編 集

【大東文化大学 大東文化歴史資料館】

〒175-0083

東京都板橋区徳丸2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL: 03(5399)7646